

## 子牛の慢性の関節炎に 対する治療方法

関節炎とは、跛行を示し関節の腫脹が認められる病態です。特に発症しやすい関節として、球節・手根関節（前膝）・膝関節・足根関節（飛節）が挙げられます。

関節炎を引き起こす原因は、外傷による場合と、臍帯炎や肺炎などから菌が体内をめぐり関節に進入する場合の2種類のパターンがあります。跛行や関節の腫脹といった関節炎の症状が発現するのは、関節内に菌が侵入してから少し経ってからのことが多く、治療の開始が遅れてしまうことがあります。

初期の治療として抗生剤の全身投与が有効とされています。しかしながら、発見が遅れたために治療の開始も遅れてしまった場合や、たちの悪い菌によって引き起こされたり、関節だけでなく周囲の骨にまで感染が波及してしまったりした場合には、長期間の抗生剤の投与だけでは効果が認められなく、慢性の関節炎へと移行してしまいます。

このような慢性の関節炎の治療法として、「関節切開術」が実施されます。関節切開術とは、全身麻酔下にて関節に2〜3箇所小切開を加えて洗浄を実施するもので、関節内の炎症産物を

直接取り除くことが出来る手術で、その後さらに数回の洗浄と包帯交換を継続します。筆者の経験では、1週間以上にわたり抗生剤の全身投与を実施しても症状の改善が認められなかった子牛の慢性の関節炎に対し関節切開術を実施したところ、その約8割を治癒させることに成功しています（写真）。

ただし、発見が遅れてしまった場合や、外傷による関節炎の場合はその外傷の程度があまりに悪い場合と、骨にも炎症が波及してしまっている場合（これは外見だけではわからずレントゲン検査を実施し、その画像から診断する必要があります）等には治療割合が低下してしまいます。また、関節切開術を実施した場合、治療するまでに術後1ヶ月弱、高額な治療費も要しますので、実施する個体の選定も重要となってきます。

子牛の関節炎は、出生後の臍の消毒を徹底することや、ハッチ・パドック内に鋭利な金属などの混入を防ぐこと等の予防が重要となる疾病です。また、関節炎の発症を発見後は、早期に獣医師に診療を依頼することで慢性化させないようにすることも重要となります。

（中部事業センター 弟子屈家畜診療所 木村 邦彦）



左：（術前）左手根関節（矢印）に認められた腫脹  
右：（術後2週間）腫脹が軽減し、負重も改善